

チー ム 音 戸

令和3年度 音戸中学校区小中一貫教育について

【目指す児童生徒像】

ふるさとを愛し、自律できる児童生徒の育成

【研究主題】

主体的に学ぶ児童生徒の育成

～「育成すべき資質・能力」の向上をめざした単元づくり・授業づくりを通して～

小中一貫教育だより第3号は、中学2年生の英語科の研究授業の様子をお伝えします。音戸中学校区では、「考えたくなる課題設定」「考え、表出する場」「考えの変容を自覚させる工夫」を授業の中で設定することで、「ふるさとを愛し、自律できる児童生徒の育成」を目指しています。

2月3日(木) 授業研修会 2年生 英語科 「Research and Presentation」

考えたくなる課題設定

- ・生徒一人一人の意欲を喚起させるために、ICT機器を活用して画像を見せていた。

考え、表出する場

- ・生徒は、設定されたパフォーマンス課題を達成するために、教科書内から自分の考えを述べるために有用な表現を抜き出して、利用することができていた。
- ・ICT機器を活用して個々の生徒が理解したことを学級全体で共有し、本時の課題となる英語表現の効果的な使い方を確認することができた。

考えの変容を自覚させる工夫

- ・ジャムノートを活用し、自分の考えと他の人たちとの考えを比較することで、知識の深化が図られていた。



生徒の学習定着度の高い授業づくり!

「わかる」「できる」授業、さらに「わかっている」から「活用できる」学びのために!

右にある図は、アメリカ国立訓練研究所が学習方法と平均学習定着率を表した図です。この図にあるように先生中心の学習から生徒中心の学習を取り入れることで、平均学習定着率が向上していることがわかります。

今は、新型コロナウイルス感染症対策のため、討論や体験等が十分に行えない状況ですが、その状況の中で「自ら学びたくなる課題設定」をいかに設定するか、「考え、表出する場」をどのように行うか、そのために「考えの変容を自覚させる工夫」をどのように行うかを音戸中学校区で研修し、取り組んでいきたいと思えます。

ラーニングピラミッド

